医学図書館における図書目録

——その形態について——

河 田 政 雄*

はじめに

標記の題目は、「第3回医学図書館員研究集会西日本集会」で筆者が発表した研究テーマの一つであるが、その節、津田編集長からこのテーマで本誌に書いてみてくれないかとの話があった。じつは、このテーマですでに「大学図書館における目録（図書）形態の問題—カード目録に対する私見—」（図書館界 Vol. 19, No. 3, '67）で図書目録の形態に関する問題提起をおこない、ついで「冊子目録とカード目録の関係—大学図書館の場合—（仮題）」（図書館学会年報 Vol. 15, No. 2 に掲載予定）でセオレティカルな考究を試みていた矢先でもあったから、今度、どのような視点から取上げていけばよいのか当惑してしまった。そして目録担当者がとかくおちいりやすい目録サービスにおける独善的な視野の狭さ、考え方といったものを指摘することによって、目録業務の合理化に少しでも役立てば幸であるといった気持から筆をとることにしたわけである。したがって、上記2つの拙文と重複する部分が多分にある点、あらかじめご容赦を願っておきたい。

なぜカード目録をつくらないか

筆者の館で、利用者用図書目録としてこれまでつくっていたカード目録から冊子体の目録一本に切替えてから1年半になる。なぜ、利用者用図書目録としてカード目録の作成の中止にふみきったのか。あるひとからは暴挙

ともみられるであろうが、もちろん理由があってのことであって、一口にいえば「カード目録が教官（および研究者）や学生にあまりにも使用されなさすぎた」からである。使用されない、または使用され方の少ない図書目録を目録担当者であるために、そして従来からつくられてきているからつくらなければならないとすれば、これほどバカげたことはない。

目録担当者にままみられるよくない傾向の一つは目録理論（技術）の偏重と過信ということであるが、これが利用者（教官（および研究者）や学生）不在の目録づくりに追いやる結果になっているということである。利用者用図書目録ともなれば、利用者（教官および研究者）が使用するものであるから、目録作成者ではなくて目録利用者の使用目的と使用方法に合致した図書目録でなければならない。

教官（および研究者）や学生の目録の使用目的といったものを考えてみると、次の2つが考えられる。

- 1) 求める図書が所蔵されているかどうかを知る
- 2) 最近関心ある図書が受入されているかどうかを知る

そして、前者においてはより多く学生に、そして後者においてはより多く教官（および研究者）にみられる使用目的上の傾向である。

さらに、利用者の目録の使用方法について考えるなら、蔵書の構成（所蔵力所的には、イ、図書館と図書館（本館と分館、または学

* Masao KAWATA, 徳島大学蔵本分館

部図書館、室)の関係、ロ、研究室と図書館の関係において、文献形態上では、イ、図書群、ロ、雑誌群で構成されている)や蔵書の利用形態(イ、開架エリアの拡大、ロ、書庫の開放(全館オープン))といった医学図書館にみられる特有の性格や諸条件が目録使用者の使用方法にもたらす影響は決して少なくなく、

イ)どこで(図書館で、あるいは研究室などで)使用できるか(目録形態上)

ロ)著者、書名、主題などから使用できるか(目録体系上)

といったことに考慮が十分に払われた図書目録でなければならないはずである。特に筆者がここで強調したい点は、目録はいかに機能的に(特に目録体系上)すぐれていると考えられても、「使用されなければその機能をはたすことができないから無いのと同じことである」ということである。

カード目録と冊子目録を、それぞれ上記のような評価の角度からその特性(長所と短所)をみるならば、

カード目録は

1. 携帯性と複製(多数)に乏しいから、使用場所が固定させられる
2. 携帯性と複製に乏しいこと、および集書の最新性を埋没させるシステムであるから集書の速報性に欠ける
3. 一覧性に欠ける

冊子目録は

1. 加除性に欠けるから、蔵書の収録範囲が限定させられる
2. 蔵書収録の一貫性に欠ける
などが挙げられよう。

そして教官(および研究者)がみずからの調査研究に必要最小限の蔵書を手許(研究室)にもち、手許にない図書館蔵書から求める文献を探索したり、専攻分野関係の新着図書を知る場合にだけ「教室で居ながら」にして使用できる目録を求めるとすれば、そして図書館蔵書の利用者である学生が全館オープンシ

ステムのなかで「目録を使用しない」で直接書架で図書を探索するとすれば、図書館に備付けてあるカード目録がいかに利用者用図書目録として好ましくない目録であるかを容易に理解することができるであろう。

図書館利用者(教官(および研究者)や学生)はどのような目録(形態)が好きか

筆者の館で利用者用図書目録として冊子目録しかつくっていない事由については前述の通りで、説明を多少はしおったため十分に理解していただけなかったかもしれない。そこで、最近、筆者の館で図書目録の形態上からみた利用効率の視点から図書館利用者(教官(および研究者)と学生)におこなったアンケート調査の結果を次におめにかけることにしたい。もちろん、この調査結果は正確な意味で(推計学的に)の調査によるものとはいえないし、徳島大学蔵本館(医学・薬学図書館)という筆者の館の図書目録(カード目録と冊子目録)利用における傾向を示すにとどまるものであることをお断りしておきたい

図書目録利用に関するアンケート調査結果

		教官(および研究者) 回答数 131 (全教官および研究者 830)		学生回答数 122 (全学生 1024)	
事	項	計	%	計	%
イ、図書カードを使用 したことがあります か。	○ある	73	55.7	47	38.5
	○ない	58	44.3	75	61.5
ロ、受入図書案内(月 刊)をみていますか。	○毎回みている	31	23.7	1	0.8
	○時々みている	76	58.1	59	48.4
	○みっていない	24	18.2	62	50.8
ハ、求める図書をどの ようにして探します か。(一つだけにチエ ックしてください)	○直接書架で	79	60.0	113	92.6
	○図書館備付の図 書カードで	17	13.0	7	5.7
	○教室に配布され る図書目録で	35	27.0	0	0

事 項	計	%	計	%
○館員にきいて	0	0	2	1.7
○その他	0	0	0	0
ニ. 最近受入された図書 をどのようにして 知りますか。(一つだけ にチェックしてください)				
○受入図書案内で	82	62.6	33	27.1
○新刊展示架で	3	2.3	40	32.8
○館員にきいて	39	29.8	19	15.6
○その他 (わからない、 無回答)	7	5.3	30	24.5
ホ. 図書カードと受入 図書目録と比べてど ちらが便利と考えま すか。				
○図書カード	17	13.0	20	16.4
○受入図書目録	70	53.4	16	13.1
○その他 (両方長短あつ て比較できな い)	17	13.0	0	0
○その他 (わからない、 無回答)	27	20.6	86	70.5
ヘ. 次のことに答えて ください。				
○図書カードが あれば受入図書目 録は要らない	8	6.1	7	5.7
○受入図書目録が あれば図書カー ドは要らない	30	22.9	6	4.9
○その他 (両方とも要る)	56	42.7	3	2.5
○その他 (わからない、 無回答)	37	28.3	106	86.9

注) 1. この調査は昭和 43 年 9 月に実施したもの。
2. 大学院学生は教官(および研究者)に含め
た。

以上のアンケート調査の結果を教官(および研究者)および学生にわけて要約すると、次のようなことがいえるのではないかと考える。

教官(および研究者)

1. 図書目録(特に図書館に備付けてあるカード目録)に関心が低い。
2. 研究室に配布される冊子目録は、カード目録に比してさすがに使用率が高い。
3. 「求める図書が所蔵されているか」知る手段として、大半が「直接書架」である。

4. 「最近どのような図書が受入されたか」知る手段として、教官(および研究者)に使いやすさの利点(研究室で使用できる)が買われて、大半が冊子目録を使用している。特に留意しなければならない点は、「館員にきいて」が比較的に多いことで、目録への依存度が低いことが、ここでも反映されている。

5. カード目録と冊子目録の有用性の比較については、どちらかといえば回答の容易でないと考えられる設問にもかかわらず、大半が冊子目録の優位性をはっきり認めている。そして、その理由としてまず第一に教室(研究室)で使用できること、新着図書がわかりやすい、ことなどを挙げている。また、カード目録を便利と答えた理由のなかでは、蔵書全体をまとめてみる点ができる点が強調されている。

6. カード目録と冊子目録のいずれか的一方をつくらないとした場合の設問に対しては、約半数が「両方要る、または図書館として両方要るのではないか」と答えてい、至極もっともな数字といえるであろうが、いま少し分析を加えれば、ハ)ニ)、にあらわれた「直接書架で」60%、「カード目録で」13%、「冊子目録で」62.6%の数字が示すところでは、この回答の数字の根拠があまりにも貧弱であることに容易に気がつくであろう。

学 生

1. 教官(および研究者)の場合と同じように図書目録に関心が低い。
2. 約半数が冊子目録をみているが、これは月刊の「館報(「MLニュース」を刊行している)」に折込されて利用されているためと考えられる。
3. 「求める文献が所蔵されているか」知る手段として、「直接書架で」が圧倒的に多い。
4. 「最近どのような図書が受入された

か」知る手段として、「新刊展示架」が一番多くて32.8%、あと「冊子目録」で、27.1%とおおよそ同程度に利用しているが、「わからない、無回答」と答えたものの24.5%の数字に学生の蔵書利用における関心のなさが十分にうかがえるといえよう。

5. カード目録と冊子目録とでは使用上でどちらがより便利であるかという設問に対しては、おかれていた環境、立場が教官（および研究者）とちがって実際上の比較の根拠（特に冊子目録の利点について）をもたないせいか、「わからない、無回答」が圧倒的に多い。
6. カード目録か冊子目録かのいずれかしつつくれない場合に、どちらを選択するかについての設問に対して、「わからない、無回答」が圧倒的に多いが、この数字は学生が蔵書利用に際して教官（および研究者）より消極的であること、すなわち目録に対する関心度がはるかに低いことを意味している。

図書館はどのような図書目録 (形態)をつくるべきか

これまで、利用者用図書目録というものは目録使用者の使用目的と使用方法を確認した上でそれにマッチした目録はどのような目録であるかを検討してつくられるべきものであって、決して図書館側の考え一方でなされるべきではないという点を強調してきた。すなわち、目録は目録使用者（教官（および研究者）と学生によって使用目的と使用方法に差異がある）の立場からその利用効率面がまず第一に評価されなければならないということであった。そして、医学図書館において形態上からみて好ましい利用者用図書目録は冊子体目録であるようであるとの結論が得られた。つぎには、目録をつくる側からの検討または評価、つまり図書目録の経済性、能率性に考慮が払われなければならないのはいまさ

らいうまでもない。

図書目録の経済性の評価は、目録の作成および維持にかかるコストの把握と分析とによって目録コストを引下げることにある。「一円でも安く」つくりそして、維持することであるが、同時にまた能率よくつくり、そして管理することでもなければならない。図書目録の作成および維持にかかる経済性および能率性の比較評価については他の図書館関係雑誌に発表済みのものを参考にさせていただくとして、カード目録と冊子目録のそれぞれについてその作成と維持に際してコンピューターが導入されない段階でどのような問題があるのか簡単に指摘しておきたい。

カード目録の作成・維持上の問題といえは、およそ次の2つを挙げることができよう。

1. カードの複製

カード目録の作成において比較的簡易で安価にできるところから一般に謄写印刷方式が普及しているが、複製能率の悪さが一番の欠点とされており、デュプロ複製やゼロックス、オフセット複製といった作成法の開発が試みられている。

2. カード・スペース

カード目録の維持は、カード目録を保管するスペースの確保といった形で問題とされる。蔵書量が増大し、また著者や書名、主題などから使用しやすい目録機能の整備を充実すればするほどカード・スペースはますます拡大されなければならない。そして現実にはどの医学図書館へ行っても、カード目録の保管にかなりのスペースがさかれているのがみられるが、そう遠くない将来に、カード・スペースの拡大のために閲覧室などのスペースが犠牲にされるであろうことは十分に予想できるところである。

冊子目録の問題点としては、次のようなものが考えられる。

1. 刊行頻度を多くすることができるか

新着図書を求める利用者に対して、新収

図書目録はできるだけ早く、できるだけ回数多く刊行されなければならない。

2. 目録の編集（目録の累積や構成）が容易にできるか

蔵書目録は求める図書の所蔵の有無をたしかめる道具として、たえず目録が累積されてい、主題や著者、書名から使用できるように構成されなければならない。

3. カード目録作成以上に時間や労力をかけなくてすむか

4. 印刷費用はどの程度か（印刷方式によって異なる）

以上のような問題を同時に、しかも完全に解決できるような冊子目録の作成技術とその方法が開発されれば問題はないのであるが、それは無理な注文であろうし、目録使用者の欲求の度合と、目録をつくるものの能力（経済力を含めて）をバランスさせうる段階で問題の解決を求めることになるであろう。筆者の館で現在利用者用図書目録としてつくっている冊子目録の作成法をここに紹介して、これについてよいアイディアのご教示をいただきたいと思う。

1. 図書館用図書目録（書架目録）としてカード（標準図書カードを使用）（図A）を一枚作成する。このカードが利用者用図書目録としての冊子目録のオリジナルとなる。
2. 上記のカードを一枚あて、主題順（同主題内では書名のABC順）に配列し、書誌的記述部分だけがあらわれるようにずらしてセロテープで裏面から固定する（図B）。これをエレファックス複写機にかけて（ゼロックス複写機でもいいが、並べ重ねたカードのサイド面が線になって現れ見苦しい）オフセット印刷機用マスターペーパーを作成する。これをオフセット印刷機で印刷する（図C）。
3. 発行回数は速報性をいかして、できれば週刊がいい。（筆者の館では月刊）
4. 蔵書目録として主題、書名、著者名から検索できる年間累積冊子目録を上述の方法でつくる。
5. 年間冊子目録ができるまでの間のカードは、利用者用（主題か、または書名の配列にして）目録として使用する。

図 A

<p>(大学演習) 微分積分学 三村征雄 他</p> <p>裳華房 昭和43</p> <p>(413 Mi 34) (麻醉)</p> <p>M-67846 (M)</p> <p>S. 43. 8. 26</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">○</div>

図 B

食 品 工 業		漢和中辞典 貝塚茂樹他編 角川書店 昭和42 (813 Ka21) (放射)
食品包装技術便覧 日本包装技術協会編 日本生産性本部 昭和43 (588 N77) (公衛)		角川漢和中辞典 貝塚茂樹他編 角川 書店 昭和42 (813 Ka21) (特栄)
農 業		広辞苑 新村 出編 岩波書店 (813 sh 64) (眼科)
農薬増補版 石井象二郎 朝倉書店 昭和 42 (615.88 175) (生薬)		広辞苑 新村 出編 岩波書店 昭和42 (813 Sh 64) (特栄)
作物生理学講座 2-5 栄養生理編(2) 水分生理編(3) 細胞・酵素編(4) 呼吸 ・光合成編(5) 戸茆義次他編 朝倉書店 昭和42~43 (615 Sa45 2~5) (生薬)		最新コンサイス独和辞典 14版 倉石 五郎編 三省堂 昭和41 (843 Ku 52) (法医)
野菜の発育生理と栽培技術 (最新園芸技術4) 杉山直儀編 誠文堂新光社 昭和42 (626 Su 49) (生薬)		最新コンサイス英和辞典 10版 三省 堂 昭和41 (833 Sa 66) (法医)
語 学		例解辞典 一当用漢字、送りかな、筆 順一 白石大二編 帝国地方行政学 会 昭和41 (813 Sh 82) (衛化)
アメリカ口語教本 入門用、初級用、中級用、 上級用 W.L. クラーク 研究社 昭和42 (837 C 76) (図)		(研究社)新英和大辞典 改訂 岩崎民 平 河村重次郎編 研究社 昭和43 (833 I 96) (眼科)
大 独 和 辞 典 相良守峯編 博友社 昭和43 (843 Sa16) (栄生)		(研究社)新英和大辞典 新版 岩崎民 平 河村重次郎編 研究社 昭和43 (833 I 96) (放射)
独和言林 改新版 佐藤通次 白水社 昭和42 (843 Sa 85) (放射)		(研究社)新和英大辞典 新版 勝俣銓 吉郎編 研究社 昭和42 (833 Ka 88) (放射)
M-66396 (M) S. 43. 5. 23		和独大辞典 木村謹治 博友社 昭和 4242 (843 Ki 39) (放射)
M-66397 (M) S. 43. 5. 23		

図 C

<p>食 品 工 業</p> <p>食品包装技術便覧 日本包装技術協会編 日本生産性本部 昭和 43 (588 N 77) (公衛)</p> <p>農 業</p> <p>農薬 増補版 石井象二郎 朝倉書店 昭和 42 (615.88 I 75) (生薬)</p> <p>作物生理学講座 2~5 栄養生理編(2) 水分生理編(3) 細胞・酵素編(4) 呼 吸・光合成編(5) 戸刈義次他編 朝倉 書店 昭和 42~43 (615 Sa 45 2~5) (生薬)</p> <p>野菜の発育生理と栽培技術(最新園芸技術 4) 杉山直儀編 誠文堂新光社 昭和 42 (626 Su 49) (生薬)</p>	<p>42 (813 Ka 21) (放射)</p> <p>角川漢和中辞典 貝塚茂樹他編 角川書店 昭和 42 (813 Ka 21) (特栄)</p> <p>広辞苑 新村 出編 岩波書店 (813 Sh 64) (眼科)</p> <p>広辞苑 新村 出編 岩波書店 昭和 42 (813 Sh 64) (特栄)</p> <p>最新コンサイス独和辞典 14 版 倉石五郎編 三省堂 昭和 41 (843 Ku 52) (法医)</p> <p>最新コンサイス英和辞典 10 版 三省堂 昭 和 41 (833 Sa 66) (法医)</p> <p>例解辞典 一当用漢字, 送りかな, 筆順一 白石大二編 帝国地方行政学会 昭和 41 (813 Sh 82) (衛化)</p>
<p>語 学</p> <p>アメリカ口語教本 入門用, 初級用, 中級用, 上級用, W. L. クラーク 研究社 昭和 42 (837 C 76) (図)</p> <p>大独和辞典 相良守峯編 博友社 昭和 43 (843 Sa 16) (榮生)</p> <p>独和言林 改新版 佐藤通次 白水社 昭和 42 (843 Sa 85) (放射)</p> <p>漢和中辞典 貝塚茂樹他編 角川書店 昭和</p>	<p>(研究社) 新英和大辞典 改訂 岩崎民平 河村重次郎編 研究社 昭和 43 (833 I 96) (眼科)</p> <p>(研究社) 新英和大辞典 新版 岩崎民平 河村重次郎編 研究社 昭和 43 (833 I 96) (放射)</p> <p>(研究社) 新和英大辞典 新版 勝俣銓吉郎編 研究社 昭和 42 (833 Ka 88) (放射)</p> <p>和独大辞典 木村謹治 博友社 昭和 42 (843 Ki 39) (放射)</p>

6. 年間冊子目録作成後のカードは図書館用図書目録(書架目録)として分類配列して別置する。
7. 利用者用図書目録としてのカード目録はつぐらない。

お わ り に

医学図書館において雑誌目録が図書目録に比べてはるかに重要な役割を占めていることはよく知られている通りであるが、だからといって図書目録の作成を軽視したり手を抜いたりしていいはずはないのである。実際には、むしろ図書目録(特にカード目録)の作成にかなりの努力が払われているといえよう。しかしながら、それにも拘らずこれまでにみえてきたように図書目録を利用する側も、またそれをつくる側も決して満足しているわけではないということである。図書館利用者が図書目録をあまり使用しなかったり、利用者用につくられたはずの図書目録を実際に使用しているのは館員であったりするのはどこに原因があるのか。筆者は、かつてある図書

館関係雑誌のなかで「目録機能の限界」ということを強調したことがあるが、これは図書館利用者に関心のあるのは「図書そのもの」であって「図書目録」ではない、そして図書目録に関心を示すのは図書目録を使用した方が便利であると「彼らが判断したとき」にのみそうであって、したがってそこに目録機能にみずからの限界があることを認めないわけにいかないという意味のことを指摘したわけであるが、こうした利用者側の図書目録に対する関心と行動の実態を十分に認識理解しないところで払われる目録づくりの努力というもの、もはや「むだ」といわざるをえないといいたいのである。

参考(引用)文献

1. 拙稿：大学図書館における目録(図書)形態の問題—カード目録に対する私見—、図書館界 19 (3) '67
2. 拙稿：冊子目録とカード目録の関係—大学図書館の場合—図書館学会年報 15 (2) 掲載予定

*

*

*

*

*

*